

他町の議会活動を研修

議会運営委員会

議会運営委員会は、議会活動を推進するため、平成22年10月14、15日の二日間、宮城県の涌谷町と蔵王町を訪れ、議会の取組みについて調査しました。

【涌谷町】

◎議会報告会と併せ、住民懇談会を実施

涌谷町は、人口約一万七千八百人で、議員数は十五名と奇数の定数であります。

議会活性化の取組みは、町民に信頼され、より存在感のある議会を確立するため、その内容を平成二十一年二月に明文化しています。

その中で重要視しているのが議会報告会の実施です。

報告会は、町内を三地区に分け、更に一地区三箇所、三日間、全議員が参加する三班体制（議員五人で一班）で年一回、議会と行政区の共催事業で行っています。

報告内容は、当初予算の審議概要や一般質問内容とその当局答弁が中心で、終了後には、参加住民と本音で語り合う懇談会の場を設けています。

実施後の感想は、議員が進行・答弁・記録と全て行うため

自覚が高まり、住民からは好感の声が聞かれるとのことでした。

当町議会でも町民と議員の意見交換は、町政への民意反映と、議員活動を理解していただく有効な手段であり、大変参考となりました。

【蔵王町】

◎議会改革の目玉として「通年議会」を導入、更に議員の資質向上のため、基本条例を制定

蔵王町は、農業と観光の町で、誰もが住んで良かったと言える地域づくりを目指しています。人口は、約一万三千二百人で、議員数は十六名です。

主な取組みは平成二十一年一月より、北海道の白老町に次いで全国二番目に実施した通年議会と、平成二十二年二月に



蔵王町での研修

施行となった、議会活動の基本的事項や議員の行動規範を定める議会基本条例を制定しています。

こうした取り組みの背景には、議員改選直後の平成二十年二月に全議員で組織した、議会活性化のための議会改革検討会において提起された十七の検討事項をできることから始めています。

通年議会のメリットは、議会に諮らない町長の専決処分を減らし、常任委員会の活動を活性化する機動的な議会のあり方を目指しています。

また、基本条例の内容も議会のあり方、議員活動、住民対話の必要性、議会と執行部との関係、議会活性化策等であり、住民との約束事を議員自ら研修し、関係者から意見を聞きながら反映しています。

この議会活動に対する町民の反応は、実施して間もないため聞く機会がないが、少なくともデメリットはないと力強く答えていました。

この調査においては、当町議会においても、我々議員一人一人が、町民のために何ができるのか、原点に返り、できる活動から実践すべきことを再認識させられました。

併せて、以前検討して結論を出せなかった、長期欠席議員に対する報酬の減額制度化や、更には、蔵王町で検討中のサンデー議会、ナイター議会の開催についても検討が必要で、そのための議会改革特別委員会立ち上げが急務であります。

議会運営委員会

委員長 近藤悦男

議員の研修会等報告



福島県町村議会広報研修会

平成22年6月29日「ビックパレットふくしま」で、県内の議会広報を担当する議員を中心に開催され、「議会だより」の作成ポイントなどについて、研修しました。

福島県町村議会議員研修会

平成22年10月25日「ビックパレットふくしま」で開催された研修会には、14名の議員が参加しました。

〈講演内容〉「町村議会を活性化させる方策」
「これからの政局・政治のゆくえ」



棚倉中学校耐震補強工事現場視察

平成22年10月25日、耐震補強工事中の棚倉中学校現場を視察し、担当職員から概要の説明を受けました。

白河地方市町村議会議員講座

平成22年11月11日「白河市東文化センター」で開催された研修会には14名の議員が参加し、「地域主権時代の地方財政」について講義を受けました。また、話題の「やきとりじいさん体操」を体験しました。

